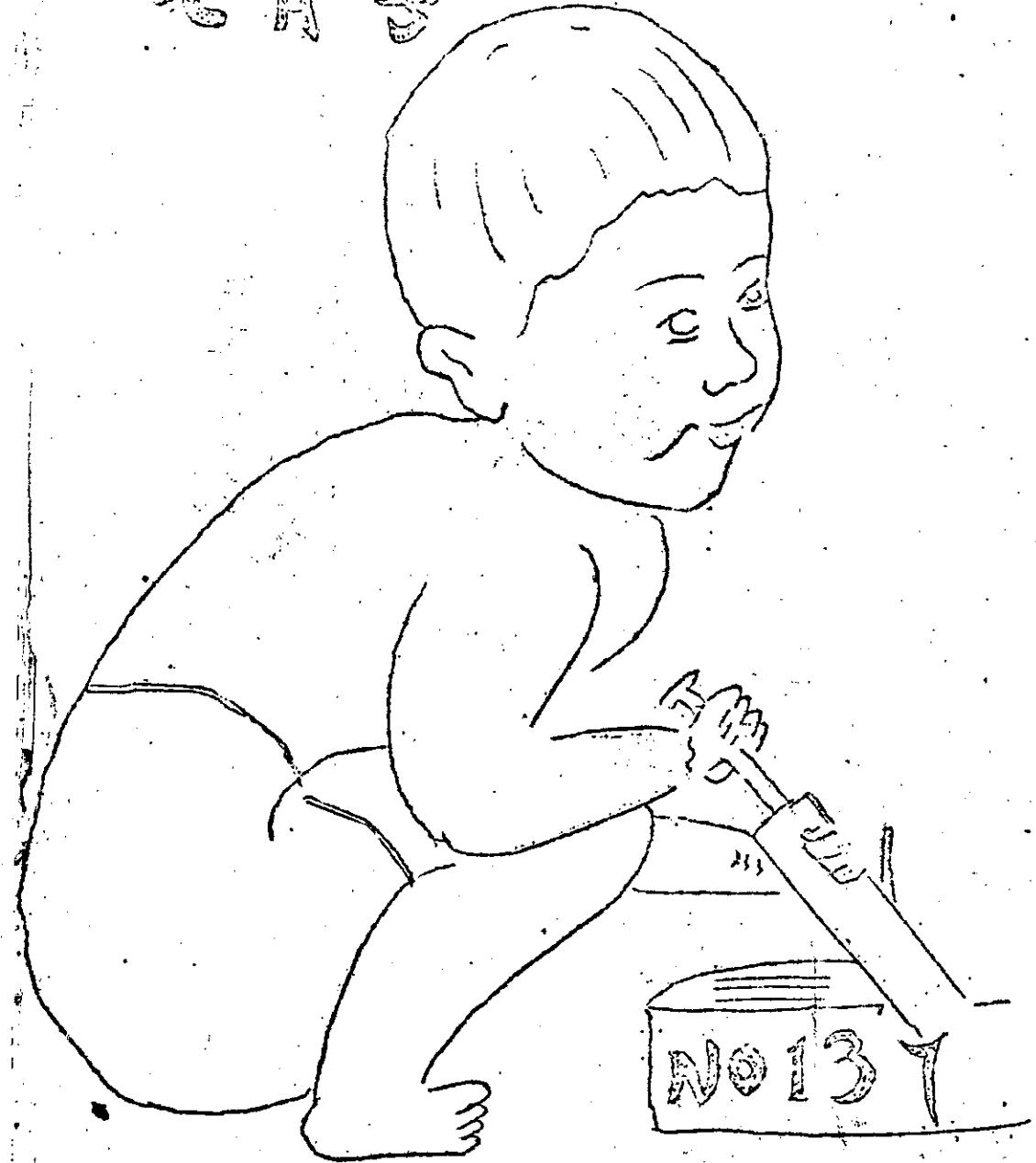
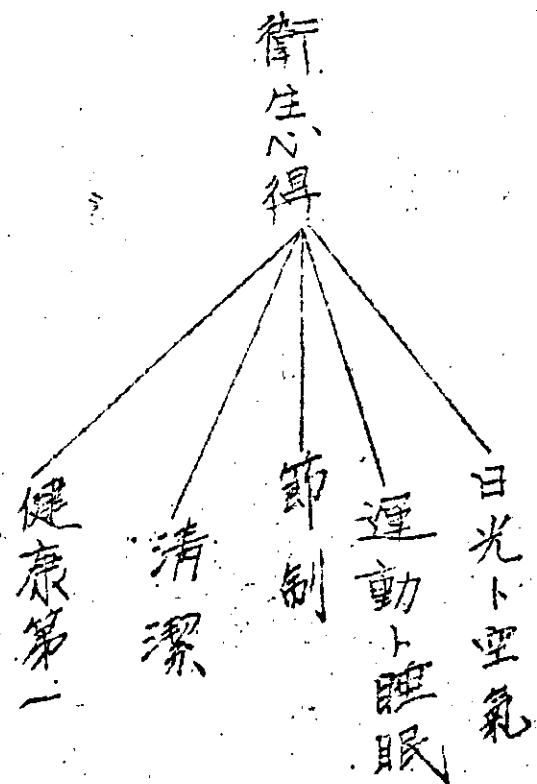


なぐしこ  
お月





暑中休暇中の心得

楽しいものの中で最も楽しいものとして皆之が待ちに待った夏休がいよいよ  
 来りた。休中は遊ぶ時にはうんと遊び勉強する時にはうんと勉強し  
 て下さい。だが身体を悪くせぬやうに気をつけ、一学期の初には皆な  
 揃って元気な顔を見せて下さい。四十日といふ長い休みですから其の  
 間色々な不注意の為に身体を悪くしたり気分がたへて悪い習慣が  
 つき易いから、右の休中の心得をよく守つて楽しく夏休を過して下さい。

- 一、身体や衣服は常に清潔にしておくこと。
- 一、夜は早く寝て朝は早く起きること。
- 一、ことに夜遊はしないこと。おびえをいやうに気をつけること。
- 一、毎日程よく運動をすること。

但し、日中暑者の激しい所で長く遊ばないこと。  
 あぶなな所で水泳、其の他の遊ばないこと。

- 一、三度の食事以外同食をしないこと。
- 特に氷水などを飲むのはなげなすこと。
- 流行病のある時は生水をのまないこと。
- 熱くない果物は決して食べないこと。
- 一、毎日必ずマモリをよく課業の復習をすること。
- 一、マモリよくして、みだれた風をいたり、寒の習慣をつけなすこと。
- 一、集合日には必ず行くこと。

今年に都合で集合日は別に定めなすので各学年共其の度毎日前以て掲示板に書きますから見た人は必ず友達に知らせ合つて必ず集つて下さい。以上

### 三年生の綴り方

ぼくが大きくなつたら

浅沼庫雄

ぼくが大きくなつたら  
 ひかりのりのりになつて  
 せんさうをひか  
 うきからばくだんを  
 おとして、しなのへいた  
 いをころしてしまひます。  
 そして日本の國にして  
 しまひます。こんどは

そしてその國の家を  
 日本のものにします。  
 そりすると日本が  
 ひろくになります。

沖山桂造

ぼくが大きくなつたら  
 けいたじまにいつて  
 やさいを大村によこし  
 て、うります。そして  
 家をこしらへてそこで  
 ごはんをたべます。  
 さうして山へ行つて富  
 とこしらへて、あなを

ほつてそこへやさいのたねをうゑてそのなつばをきつてたべます。

奥山 求

ぼくが大きくなつたら大正丸の人になつてかつをたくさんつつてふきながついできたいとおもひます。大正丸が一つばたでもみんなあたまに新しいてぬぐひをまいて來ます。手ぬぐひは大正丸といふのもぼつぼつ

の手ぬぐひもはあまきして來ます。

小宮山 タケ

私が大きくなつたらせんせいになりたいから今のうちにたくさんべんきやうをし大きくなつたらばせんせいにになりたいとおもひます。もしかせんせいになれなければうちになんにもしないであそんでおます。あんまりたいくつだとぬぐひものをします。

三年生のつゞり方

私のすきなもの

僕のすきなもの

毎田 米子

野 口 田

私のすきなものはうめぼしです。

いつもおかあさんが「うめぼし、うめぼしをかつておいで。」といつたから私はいつてもうめぼしをかつておいらとしたり、みつねえちやんが「おつ」とおどかしたから、私がとびあがりました。そしておせんのところにあくと、みつねえちやんが、そつそくとべたから、おかあさん、みつねえちやん

がうめぼしをたべたぞ」といつたりおかあさんが、「もうやつたべさせなさい」といつたから、私もたべました。私はうめぼしはひとつもからくはあま

僕のすきなものはうめぼしでなく、にしやうがです。おはんの時にもべにしやうをはいちやうからとりだします。すあとおかあさんが「又べしやうをたべるのやうはりべにしやうがです」といひます。僕は遠足の時もべにしやうがをもつて行きます。時々大きいのを口にほこんでかんでゐるのからくすぐ水さくんで

らである。又しあうがたべたくなりませうので、又はいちやうの巾着からとつてたべませう。おあさんかまるでね。すみのやうだねといひませう。

釜 釜 香水

僕のすきなものはにしやうかとにしやうかにする。ふつうのしやうかです。にしやうかをごはんの時に出すとみんなたべてしまひませう。そしてごはんの時に一つティーポールの上において、そしていそいでどんぶりにはほいておろす。みんなたべてしまつた。ごはうさまもして。七つさ、おいといひ。ティーポールの上のはにしやうかを食べませう。おれからふつうのしやうかはおれをたべてつてたべたべのが一ばんすきです。僕は僕よりしやうかのすきな人はめつたにない。お心ひませう。

長谷川

僕のすきなものはすいくわにまんごにはなすにすいくわです。そのうち一番すきなものはすいくわです。まへにすいくわを賣りがうちの前を通りまへにすいくわをいそいでうちへかへて、「おあさん、すいくわかつて」といつたり、「すいくわをなんかいしやないの」といひませう。僕は「いや、僕のだいすきなすいくわだもの、買つてくれないうちをすいくわ」といつたり。「そんなにほいしやうか買つてあげよう」といつて買つて下さりました。買つてくれたから、「お前はすいくわを賣つた」といひませう。おれから時々おとうさま、んがすいくわを呼ぶことがありますが。



通信簿を、たぐくまで、宣誘

私は通信簿のことを考へると心配で、たまりません。もう通信簿をいたぐく日もだんぐ、近くなりました。もう勉強する日も二日しかないと先生がおつしや、いきました。外へ出て遊ぶときは通信簿のことを忘れておます。それは先生が遊ぶときは何も思はず遊ばなさいといつたから、私に教室に入るとむかひつあつて甲がいくつあるか、その事を考へます。家へ行つてお母さんにその事を話しますとお母さんが、乙を二つより少くとつた、らほいも子をやる

言ひました。それから甲をとればけつこうだけれども、乙をとると心配だといつて私の事をお母さんまで心配しておます。これから妹にまけなさい一心に勉強しませう。

空をながめて、石津岩子

青空にたぐさんあつまる、星はちりりととんでゆく、一人ぼつちでとんでゆく、ほしはさぬいたかけいな、たぐさんあつまる、星はたわは、何か相談してゐるか。

おぼんが来た、鬼玉成美

昨日のおぼんは面白かつた、御飯がすんで、波止場に散歩に行つた。さうすると銀砂

のところで花火をやつてゐた僕もしたか  
 からお母さんに花火を買ふと言つたが、アアな  
 いから買つてはあげませんとお母さん言つたから  
 しかたなく氷をのみました。すると腹がいた  
 たりました。で、幾つたのをいやく／＼ながら  
 のみました。のんでから外へ出るると寒く／＼な  
 りましたので家へ歸つてとこをひいておきました  
 してゐてもまだタイコフ音がしてよくお  
 られませんでした。

私の姉さん 西村 静江

私の姉さんは今女學校に行つてゐる。試験  
 中ださうです。此の間私のとこへ手紙が来  
 ました。返事を書かんとしませんでした。お母さん  
 が、もうすぐ来るのだから書かなくともいいよと  
 おつしやうだから書かさせませんでした。私は姉  
 さんの来るのを楽しみに待つてゐた。お母さん  
 から兄さんと姉さんを遊びにおいでなさいと



五 おぼん 重田 寅

私が待つて居たおぼんが近づいて来まし  
 た。私はおぼんにはおぼんに行きます。おぼ  
 んには、小さい子供はちやうちんをつけます。  
 私は花火を買つて家の前です。一番  
 こは、花火は五れんばつ、それがう三れんばつ  
 です。おぼんは七月十三日から七月十六日まで  
 す。夜はにややかです。特に三朝さんの所が  
 にぎやかです。

夏休み 菊池 昭郎  
 楽しんで居た夏休みもいよく近づいて来ま

手紙が来りました。お母さんにおきされた  
 一行かせなにとおつしやうたから私は安心し  
 ました。私も姉さんの様に女學校へ入りたいと  
 思ひます。お母さんは何がおかしいものな  
 べるといつも姉さんへはかほいいさうだおつし  
 やいます。お母さん何はいいしてとさきかへすと  
 姉さんへは家で何が一つよにたべられたい  
 から、と言ひます。

夏が来た。 菊池 登代

- 一、夏が来た来た。うれし、夏が  
 来屋さんもいそがしい。
- 此の夏女學校へ行く時は  
 土人の様にたつて行く。
- 二、山へ行けば、草や木が  
 うれし、さうにほ、喜んで  
 元氣さうにサウサウと  
 夏はもうそこに来てる。

した。私は夏休みは何をして遊ぶか  
 と思ふ。夏休みは泳がう。それが宮の浜  
 に遊んで行かう。まだいそ／＼あ、夏休みは  
 暑／＼がう朝のうちに勉強してあかう。そ  
 れから朝は五時に起きやう。楽しんで  
 夏休みが早くくればよい。

夜のけしき 佐々木 トエ

昨夜、勉強を終えてかう海岸に行つ  
 てみた。月は一歩に海をてらして居る。あ、  
 何となく、景色だらう。私は月をながめ  
 ながら歌をうたつた。月のまはりの空には、  
 星がうすくちやほつて居た。あたりは静か  
 何もきこえない。風はかすかに吹いて来る。

何ともいへないよ、気持ちだ。すると向ふから  
「モニカ」の音がきこえてきた。それはかなしい  
よ、こえた。だ。

### △ 考查

岡渕ヒサ子

考查は私はいやです。一昨日は修身の考  
査がありました。今日は讀方の考查を  
しました。私は考查の時はびくびくです。  
何も出来ななと思つて書きますと、それも  
四五頁は取れます。考查を返して、もうつ  
ても、悪い矣だとお母さんやお父さんに見  
せる氣になれません。中で一番見せるのは  
書方です。黒板に考查の頁をはく時  
心配で急ぎ見に行きます。

### △ お墓参り

川崎末子

私達が楽しみに待つて居たおぼろが、よ  
いよやま来ました。夕方になるとみんなお  
墓参りに行きます。私の家でも行きま  
した。お墓につくとおまわりをしてゐる人  
で、ぎやかでした。あちらからこちらからも  
人のこえがきこえて来ます。家のお墓は  
ずつと上の方なので、上るのもやつとです。  
家のおまわりをすましてから、いづえさんの家  
のお墓にもおまわりしました。すつかりす  
んで、私たちが帰る時はもう人のこえも  
きこえませんでした。

### 六年生の綴方

#### 夏休

高崎喜久雄

「もう夏休が近付いて来た」と誰かが云  
ふ。私はうしろ、重ばかりで胸が一杯に  
なりました。夏休になつたらどうゆう遊  
びをして遊ぼうと云ふ計画はもうちやんと立  
つておますので、いつ夏休がおつても、こつ  
かな、こつかに休んで居る。朝は早く起  
きて、お風呂をいそいそと浴び、海などへ遊び  
に行こう。もう夏休が終つたら第二  
学期の勉強も、いよいよと思ひます。

笹口文雄

私は夏休になつたら、ゆいゆいに遊ば

又勉強も早く朝のうちにして、お

夏休には兄さん、姉さん、お母さん、お父さん、

夏休は四十日餘の長し、休である。

その長、休は無駄にすつてはな

もたらない。勉強する時は一生懸命

に遊ぶ時は元氣に遊ぼう。

此、ゆい、な、楽、い、夏休もあとちやうど

あ、ま、ち、遠、い、夏休。

夏休の計画 大友たつ子

あ、な、つ、か、い、夏休も近付いて来た。私

夏休に何をしようか、母、お、手、傳、

してあげようか、それと、お、皆、え、と、一、緒

遊むやうか。夕方は皆一  
階に泳ぎにゆく。朝涼し時には勉強  
三時過ぎに遊ばぬに早く寝朝は早く  
泳ぎに泳水するやませう。夏休  
は九月二五日から。どうして夏休  
が来るにせらう。なくとも好いと言ふ  
が六月は真夏で一番暑い時だか  
ら夏後生後がよく勉強しなからたら  
うと私は思ひます。

ハイタク

夏休のこの晝寝の  
涼みだ  
水泳でくさり西風に

刊乱れ。西村正一

かろ水んほ。菊心愛子

夏休 海を見るとは

泳ぎたい。 真山文子

初夏に来たを知らず

せみう声。 杉田次郎

百夏

暑い真夏の日は受けて

あ家のあ屋根はかはいそ。

お部屋の中では暑がすやくと

はあつてる。 私はあ窓で遊んでる。

涼しい風よ来てあくれ。 笠谷輝子

高一 作文

お盆の夕暮

奥山 紀子

一ツ、二ツ、三ツ、提燈は増して来た。

私は質一をおぶって提燈をつけて散歩

に出かけた。家の前通りには一ツもな

った提燈が表通りになつたらえな

に澤山集まると驚きながら亀波止

場の向い岸に渡つてある板橋の上に乗

つて南国の唄を獨唱した。質一が帰

りたので黒ずんだ風防林の木の下

をくづつ時一才頭を上げたら遅の悪

には流星だ、夜の空で人玉とか火玉

だとかを見た事のない私は流星程  
気持の悪いものは無い

頭からザリツと水でもかけられた程  
にヒヤリとして、つばを三度吐き出した。

もう一度空をながめた時は風防林は  
通りすぎて青野さんの前だいた。

空には星が一ぱい集つてゐた。

身体と精神 原田武重

健全なる精神は健全なる身体に宿る

と云ふ格言が如く、身体と精神とは密

接な関係がある。精神作用をよく働か

せやうとするには先づ身体を強健にしな

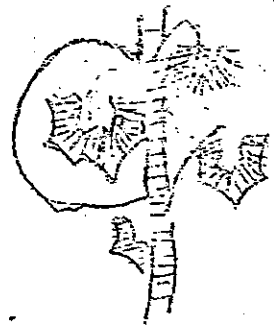
ければならぬ。元気に仕事をし、愉快に







昭和八年七月第百三十七号



大村海軍小学校  
蔵書印